

雪の妖精

日に日に寒さが増してきましたが、皆さんいかがお過ごしでしょうか？寒いのが苦手な私は毎朝布団の誘惑との戦いです。

私の出身の北海道では、雪が降る前に「雪虫」というのがたくさん現れます。アブラムシの仲間ですが、おなかのところに綿のようなものがついていて、まるで雪のようにふわふわ飛んでいます。「雪虫が飛ぶと初雪（はつゆき）が近い」という、ちよつとロマンチックな言い伝えもあり、雪の妖精とも言われています。見た目がかわいらしいので小さいころはつぶさないように捕まえてじーっと見つめていたことがあります。そんな雪虫ですが大量発生してしまうと、歩いていても自転車に乗っけていても服にたくさんくっついてしまうので、虫嫌いの私はよく悲鳴をあげていました。一匹だけならかわいいのですが、東京では見る機会がないので出勤・帰宅後に毎回服をはらっていただのはいい思い出なのかもしれません。

最後になりましたが、皆さんにとって来年も良い年になるようにお祈りいたしております。来年もよろしくお願い致します。リハビリテーション課

近藤 明奈

特集『胃瘻』第1回

Q1 胃瘻(いろいろ)ってなんですか？

胃瘻とは、胃に管(くだ)を通して直接栄養剤を注入するために、お腹に穴があいている状態の事です。口から食事のとれない方や、食べてもむせ込んで肺炎を起こしてしまう方に行われる栄養療法の一つです。

Q2 メリットとデメリットを簡単に教えてください

メリットは、栄養がとれるようになるので栄養状態が改善することです。また、鼻から管を通す栄養方法よりも管理がしやすく、効果的なりハビリテーションが可能になります。

デメリットには、栄養剤をあたためたり、栄養を入れる際に時間がかかるなど、介護量が増えることが挙げられます。

Q3 どのようにして胃瘻を作るのですか？

現在主流となっているのが、経皮内視鏡的胃瘻造設術(percutaneous endoscopic gastrostomy)、通称PEG(ペグ)と呼ばれる手術です。

これはお腹を開けずにお腹と胃との間に穴(瘻孔)を形成する内視鏡を使った手術で、19世紀ころから行われている外科的な胃瘻造設を、より簡単に、より安全に行うものです。

病院で胃カメラと造設キットを用いて15分間程で作ることができます。本人の負担は、胃カメラをの

むことと、上腹部の皮膚を0.5~1cm切開され、そこへ直径1mmほどの太さの針を刺されることです。麻酔は皮下までの局所麻酔ですが、鎮静のために抗不安薬を静脈注射することがあります。

Q4 誰でも胃瘻を作ることができますか？

極度の肥満、胃の潰瘍性病変、大量の腹水貯留など、難しい場合があります。また、本人の意思が確認できないときには倫理的な問題もでてきます。かかりつけ医とよく相談して下さい。

Q5 栄養にどれくらい時間がかかりますか？

栄養摂取のスピードは本人の消化能力に応じて自由に調節できます。通常は1時間あたり200cc程度を点滴のように滴下します。消化管能力が落ちている方では、摂取スピードが速いと食道に逆流したり、下痢をすることがあります。

Q6 胃瘻があっても、ごはんは食べられますか？

胃瘻が作られていても、それが原因で口から食べることに支障がでるということはありません。食べた物がおなかから出てくることもありません。

Q7 胃瘻がなくなったら、元に戻せますか？

口から十分に栄養が取れ、胃瘻が不要になったら胃瘻の管を取り除くことができます。

文責：言語聴覚士 伊藤七海

昭和記念公園訪問



3F 今年もコスモス見学に行ってきました。一回では大勢をお連れすることができないので、数回に分けて行ったのですが、晴れの日が続いたおかげで、全員がいい天気の中、行くことが出来ました。

のびのびとした暖かい太陽の日差しの中、コスモスもきれいに咲きほこっていました。利用者の皆様も体いっぱい太陽の日差しを浴びて、コスモスに負けない素敵な笑顔が見られ、とても楽しい秋の日となりました。

2F 10月15日、毎年恒例の運動会が行われました。種目は玉入れや玉運びなどが行われ、参加者の皆さんがとてもがんばってくださったので大変盛り上がりました。笑顔もたくさん見られ、とても楽しんでいただけましたので、来年も利用者の皆様と元気に楽しく過ごせるような運動会にしたいと思います。

運動会



4F 10月27日に運動会が行われました。種目は、玉入れやジュース取り競争などが行われ、皆様真剣に競技に参加していました。



順番待ちの方も、応援席で大きな声で応援されたり、笑顔を見せたりと、とても盛り上がっていました。来年も楽しい運動会にしたいと思います。

チーム紹介⑦



施設サービス計画課

利用者さまのおおやぎ苑での生活がよりよいものになるように、ご本人やご家族、スタッフと相談しながらケアプランを作成しています。利用者さまの思いや体調にも配慮した、きめ細かいサービスを行い、いつも皆さんが笑顔で過ごせるよう、今後もケアプランを考えていきます。

横山、山本、川瀬（左より）

私のふるさと自慢

私の生まれは、伊豆七島のひとつである伊豆大島です。伊豆七島のなかで一番大きい島ですが、コンビニもなければファミレスもない、半日で自転車一周ができてしまうくらいの規模の島です。

しかし、海があり、火山があり、温泉が



あり、自然に囲まれた素晴らしいところです。島の名物は、椿油を使用した天ぷら、地元の魚介類などです。特に「クサヤ」という鯨の発酵食品は、匂いは評判がよくないですがとっても美味しいので、機会がありましたら敬遠せず是非挑戦してみてください！皆様の来島をお待ちしております♪

言語聴覚士 伊藤七海